

市場価格
ドル建て **ドル/TOZ**

Platinum	Price	Date
Open	1085.70	2021/11/15
High	1105.90	2021/11/16
Low	1032.50	2021/11/19
Close	1033.50	2021/11/19

円建て **円/グラム**

Platinum	Price	Date
Open	3978.00	2021/11/15
High	4066.00	2021/11/16
Low	3779.00	2021/11/19
Close	3788.00	2021/11/19

ドル建て **ドル/TOZ**

Palladium	Price	Date
Open	2118.00	2021/11/15
High	2215.00	2021/11/17
Low	2060.00	2021/11/19
Close	2065.00	2021/11/19

円建て **円/グラム**

Palladium	Price	Date
Open	7744.00	2021/11/15
High	8114.00	2021/11/18
Low	7523.00	2021/11/19
Close	7560.00	2021/11/19


ニュースエクスプレス
環境対応、貴金属を選別 白金回復・パラジウム停滞 価格水準・将来性の違いがカギに

自動車の排ガス浄化触媒に用いられる貴金属の間で選別色が強まっている。プラチナ（白金）は9月の急落前の水準を回復したが、パラジウムは停滞が続く。ガソリン車向けで価格水準の高いパラジウムから白金へと触媒を切り替える動きが出ている。長期的にも、脱炭素の流れのなか白金は水素生成向けなど新しい需要が見込める半面、パラジウムは需要減の見通しが強い。両者の価格が再逆転する可能性も指摘される。

白金は南アフリカが主産地。宝飾品向けとしても人気があるが、最も需要が大きいのは排ガスの浄化に使う触媒向けだ。英精錬大手ジョンソン・マッセイ（JM）によると、総需要の4割を占める。パラジウムは白金の仲間の「白金族」に分類され、白金などの副産物として採れる。南アのほか、ロシアなどが主な産地。需要の8割が自動車触媒用だ。

両者は同じ自動車触媒向けでも細かく見ると異なり、白金は主にディーゼル車向けに使われることが多かった一方、パラジウムはガソリン車向けとされてきた。

白金とパラジウムは9月、国際指標となるニューヨーク先物がともに年初来安値を更新した。8月以降、自動車大手各社が半導体不足による減産を相次ぎ表明したためだ。投資マネーも離れ、米商品先物取引委員会（CFTC）によると9月に投機筋の持ち高は白金・パラジウムともに売り越しに転じた。

その後の値動きは明暗を分けた。7月末の価格と比較すると、白金は11月中旬に一時6%高い1トロイオンス1100ドル台まで回復したのに対し、パラジウムはいまだ2割程度安い2200ドル前後で推移する。投機マネーも白金は買い越しに転じたのに対し、パラジウムは2001年以降で最大規模の売り越しが続く。

数年前までは、宝飾品など向けの需要もある白金の価格がパラジウムを上回っていた。独フォルクスワーゲンの排ガス不正などでディーゼル車の販売が失速すると、白金の価格は低迷。パラジウムは中国や新興国でガソリン車の排ガス規制が強まるなか需要が拡大し、18年以降はパラジウムのほうが価格が高い状態が定着している。

足元でその差が縮まっている。「中国などでは高騰していたパラジウムに代わり、白金をガソリン車の触媒として使う動きが出てきている」（触媒メーカー）ことが一因だ。排ガス規制が年々厳しくなるなか、海外ではコスト削減のためにパラジウムの代わりに白金を使う動きが進んでいる。

JMによれば、触媒に使う貴金属のなかで白金の比率は6年ぶりに高まり、パラジウムは低下する見通しだ。ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル（WPIC）の予測では自動車1台に使う白金の量は規制強化などで今後増加する見通しである一方、パラジウムは横ばいにとどまるとみられる。

中長期的には、脱炭素の流れも両者を選別しそうだ。電気自動車（EV）の普及で内燃機関車向けの触媒需要は将来減ることが見込まれる。一方、電気分解で水素を生成する際の電極に使う白金は、燃料電池車（FCV）や水素の活用が進めば、需要が増えるとの見方も強い。

米ゴールドマン・サックスは10月のレポートで「白金の自動車向け需要は、パラジウムの代替や燃料電池需要の増加により、EVのシェアが増えても成長する」と指摘した。南アフリカの鉱山大手、シバニエ・スティルウォーターの予測によれば、白金需要は今後も増加する一方、パラジウムは20年代半ばから減る見込み。日本貴金属マーケット協会の池水雄一氏は「今後3～5年で白金とパラジウムの価格は再逆転する」とみている。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB11ACZ0R11C21A1000000?unlock=1>
水素エネルギー需要、2030年には 1億4000万トンに

水素の年間需要は現在の9000万トンから、2030年には1億4000万トンとなり、そのうち20%はグリーン水素が占めると予測されている。

しかし、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルによると、3000万トン以上のグリーン水素を供給するには250 ギガワット以上の規模の電解能力が2030年までに必要で、「現在の目標である90ギガワットを大きく上回る。」

さらに長期的にはクリーン水素の需要を満たすためには2050年までに6億9000万トンに達しなければならないとされ、そのうち 60% から 80% をグリーン水素とするには、3から4テラワット規模の電解能力が必要である。

「将来にわたるグリーン水素の供給を支えるための電解能力の大幅な増強はプラチナにとってはプラスとなる。というのはプロトン交換膜（PEM）電解装置は不安定な要素を持つ再生可能エネルギーに特に適しているからだ。」

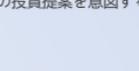
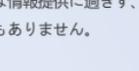
WPICはまた、水素エネルギーの普及の広がりは燃料補給ネットワークなどの水素インフラの発展を促し、それは燃料電池自動車のさらなる普及を進めることにもなるとしている。

<https://www.theghanareport.com/hydrogen-demand-to-rise-to-140m-tonnes-in-2030/>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA


WPIC直近の活動

- COP26（国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議）は、200カ国ほどに及ぶ国々が参加し、2030年までに気候変動への対応をより強化することに合意した「グラスゴー気候合意」を採択。詳しくはプラチナ豆知識「グリーンな未来のための金属」（2021年11月17日）をご覧ください。
<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2021/11/17>



(@wpicjapan)

免責事項：本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。